

特殊詐欺の新たな手口にご注意を！

最近、特殊詐欺の発生件数は減少していますが、新たな手口による特殊詐欺被害が北海道でも発生しています。今回は特殊詐欺の新たな手口や今年発生した被害事例を紹介しますので、確認し被害に遭わないようにしましょう。

事例1 動画サイト上の投資に関する広告から6,200万円の被害

被害者（70代男性）が動画サイトを閲覧中、サイト上に表示された「投資、3か月で倍になる」という広告にアクセスしたところ、投資関連のSNSグループに誘導された。後日、グループから水素エネルギー事業投資とFX投資をそれぞれ持ち掛けられ、指定された口座に現金計6,200万円を振り込んでしまった。



事例2 警察官をかたるキャッシュカード詐欺で256万円の被害

被害者（70代女性）の自宅固定電話に警察官を名乗る女性から「警察署です。詐欺の被害に遭っており、現金が引き出されています。署員がもうすぐ取りに行くので、電話を切らずに待っていてください。」と電話が掛かってきた。間もなく自宅に警察官を名乗る男性が訪れて、封筒にキャッシュカードを入れて保管すること、氏名、口座の暗証番号などを書類に記載するよう指示されたため行ったところ、目を離した隙に別の封筒とすり替えられてキャッシュカード2枚を盗まれた。後日、口座を確認したところ数回にわたり計256万円が引き出されていた。

事例3 留学生に対するオレオレ詐欺で800万円の被害

被害者（20歳女性、中国人留学生）に上海警察の警察官をかたる男性から「スマートフォンのデータが悪用され犯罪に使われている。金を払わなければ強制送還する」と電話が掛かってきた。そのため、中国の家族から現金を送金してもらい、計800万円をインターネットバンキングを通じて指定口座に振り込んでしまった。後日、検察官をかたる男性からさらに現金を要求され、お金が無いことを伝えると「誘拐事件に巻き込まれたと装い、親から身代金を送らせるように」と指示を受けた。自らの手足を縛った写真を撮影、家族に送信して送金を依頼、家族が不審に感じ通報したため詐欺と判明した。

● 国際電話番号の着信にもご注意を！

国際電話を使った特殊詐欺の予兆電話も急増しています。+1（アメリカ）や+44（イギリス）で始まる電話番号から掛かってくるケースが多いので、そのような番号から着信があった際は電話に出たり、かけ直さないようにしましょう。また、海外との電話が不要な方は発信・着信を無償で休止できます。

申込先・問合せ 国際電話不取扱受付センター ☎ 0120-210-364

（平日9時から17時はオペレータが案内、それ以外の時間は自動音声案内で対応）

不審者や不審車両を見かけたら

警察署・最寄りの駐在または役場総務課までご連絡を！

苫小牧警察署 ☎ 0144 ㊟ 0110

追分駐在所 ☎ ㊟ 2003

安平駐在所 ☎ ㊟ 2339

早来駐在所 ☎ ㊟ 2030

遠浅駐在所 ☎ ㊟ 2211

役場総務課 ☎ ㊟ 2511